

1. 観測の概要

【目的】

G7伊勢・志摩サミット首脳宣言で国際的な海洋の観測及び評価を強化するための科学的取組が支持されたことなどを踏まえ、気候変化・変動への適応策・緩和策の策定やそれらに起因した渇水・多雨等への対策、海洋酸性化への海洋生態系の応答等に資する新たな科学的知見を提示する。

【内容】

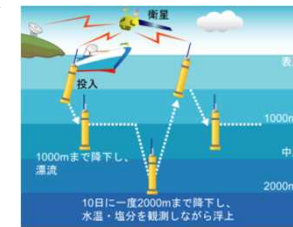
太平洋、インド洋、南大洋において船舶・係留系・漂流フロート等による海洋観測及び取得データの解析・公開を実施

【得られるデータ】

水温、塩分、温暖化関連溶存物質、栄養塩、クロロフィル濃度、流向流速、海上気象等

【国際連携状況】

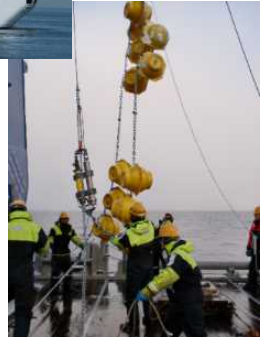
GEO、GOOS、GCOS、Arctic Circle等の国際枠組みや Blue Planet、Argo、Ocean SITES、GO-SHIP、IOCCP、SAON等の国際プロジェクトに参画



漂流フロート計測



船舶による
CTD計測



係留系計測

2. 社会課題解決に対する効果

【期待される成果】

- ・日本の気候に影響を与える中高緯度の気候変動予測モデル、漁業資源管理等に資する海洋生態系変動予測モデルの精度向上
- ・科学的根拠に基づいた国際ルールメイキングによる国益確保
- ・国際ルールメイキングへの積極的関与による我が国のプレゼンス向上
- ・国際的観測枠組みにおいてスタンダードとなる海洋観測機器・技術を開発し、市場の獲得に貢献

【「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」8課題解決への貢献】

各課題の解決に資する基盤的な観測であり、特に以下の課題解決に貢献

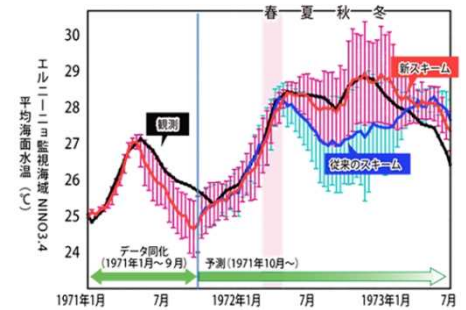
- ①気候変動に伴う悪影響の探知・原因の特定
- ②地球環境の保全と利活用の両立
- ⑧科学の発展

【「Society 5.0」への貢献】

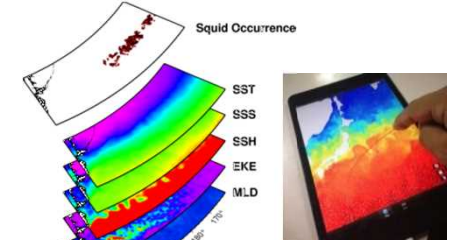
膨大な海洋地球観測データを取得及びこれを最大限利用するための再解析データセットや予測データセットを作成・提供することにより、Society5.0実現に必要な、新たな価値やサービスの創出の基となる地球環境情報プラットフォームの構築に貢献する。



国際的観測枠組みのスタンダードとなる海洋観測機器の開発



エルニーニョ現象予測等、気候変動予測手法の高度化に貢献



海洋生物資源データを統合解析し漁業情報として提供、資源管理に貢献